

D-3 保育における価値の検討——「きたない」をめぐる——
お茶女大家政 工藤啓子

目的 保育者は日々の活動において種々の価値を子どもたちに伝えている。それらの価値の中には、保育目標などの形で意図的に伝えられるものもあり、また保育者の何げない行動の中からいつの間にか伝わっていくものもある。保育の性質上、後者もまた見逃がすことのできない位置を占めている。保育の場にあられる価値は日常的であり、それ故普遍的でもある。今回はその中から「きれい、きたない」に関連して、特に「きたない」に重点をおいて考察し、保育を考える一助としたい。^{（この価値）}

方法 ○週三日、幼稚園において五才児クラスの副担任として保育を行ない、記録をとる。また日常生活で出会う子供の観察記録をとる。それらの中から「きたない」に関連する場面を取り出す。○類似の体験を大人の生活において考察する。○類似の現象に関する諸分野の文献考察を行なう。

考察 ①保育における「きたない」という価値のあらわれ方

- ② 感覚的な「きたない」と因果論的な「きたない」
- ③ きたない——けがれの概念をめぐる
- ④ きたなくなることについて——発達的に
- ⑤ きたない状態（カオス）からきれいな状態（コスモス）へ